

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/14		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587041301	科目番号 / Subject code	05870413
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (市民運動・NGOと核兵器廃絶)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中村 桂子		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中村 桂子		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中村 桂子		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakamurak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	核兵器廃絶研究センター (RECNA)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー/Office hours	毎週木曜14:40-16:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	このクラスでは、核兵器をめぐる日本と世界の動きの中で、市民運動やNGOがどのような役割を担ってきたのかを学びます。民主主義における市民社会の役割と位置付けを概観したのちに、過去と現在におけるいくつかの特徴的な市民・NGOの活動の例を取り上げ、その背後の理論、成果、残る課題等について検証します。核軍縮に限らず、さまざまな国際問題に関心のある学生、将来国際機関やNGOで働くことを視野に入れている学生、一人の人間として社会に対して何ができるのかを模索したい学生、いろいろな問題関心のある学生に対応した授業となっています。		
授業到達目標/Goal	核兵器をめぐる市民運動とNGOの動きについて全体的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分で考え、それを説明できるようになることを期待します。		
授業方法 (学習指導法) /Method	授業は担当教員による講義に加え、ゲストスピーカーによる講義やグループ発表、ディスカッションなどを組み合わせたものになります。講義であっても、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持つようにします。また、授業の中では、パワーポイントスライド、写真、映像などのさまざまなビジュアルを通して、学生が最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取られるような授業を行います。実際の活動の当事者を招いて話を聞くことも追求します。受講人数にもよりますが、少人数グループに分かれての調査、その報告及びグループディスカッションも予定します。		
授業内容/Class outline/Con	講義は、「市民」「市民社会」「NGO」とは何かといった概念整理から始め、民主主義体制における市民社会の役割を歴史的観点から概観します。その中では、特定の兵器に関する禁止条約の策定において市民・NGOが担ってきた役割についても学びます。核兵器をめぐるのは、その誕生から現在に至るまでの歴史の中で、国内外の市民・NGOがどのような運動を展開してきたか、その歴史的背景、活動における理念や考え方、実際の活動、社会的・政治的影響と成果、残る課題等について具体的事例を挙げながら検証していきます。並行して、グループ単位でのNGO・市民運動の活動に関する調査を行い、その結果を発表するとともに意見交換を行います。		
キーワード/Key word	核兵器、市民、市民社会、NGO		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book			
成績評価の方法・基準等/Evaluation	出席点及び講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	全回出席が原則。		
学生へのメッセージ/Message for students	核兵器廃絶は国や国際機関だけが取り組んでいる課題ではありません。この授業をきっかけに、核兵器の問題を一人一人の問題としてとらえ、今の世界を少しでも良くするために個人やグループとしてあるいは地域として何ができるか、を考えていきたいと思えます。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	授業の進め方について 「市民社会」とは何か		
第2回	市民社会は世界を変えたのか ～対人地雷兵器禁止の例から～		
第3回	原水爆禁止運動の誕生と発展		

第4回	広島・長崎の被爆者の運動
第5回	アジアの中の日本 ～市民社会の連携を考える～
第6回	グローバルな核兵器廃絶運動の今
第7回	核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み
第8回	「科学者の社会的責任」とは？
第9回	日本の役割とNGO
第10回	若者による運動
第11回	グループ発表
第12回	グループ発表
第13回	グループ発表
第14回	グループ発表、全体の講評
第15回	まとめ：私たちにできることは？
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587041701	科目番号 / Subject code	05870417
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (被ばく者と医療)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中島 正洋		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中島 正洋		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中島 正洋, 赤星 正純, 三根 真理子, 宮崎 泰司		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次、多文化、経済、教育、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	moemoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	原研病理		
担当教員TEL/Tel	095-819-7105		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木曜日 17:00 ~ 19:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。		
授業到達目標/Goal	<p>原爆被ばくの人体影響を理解できる。</p> <p>原爆被爆者の健康調査について理解できる。</p> <p>原爆被災時の救護活動について理解できる。</p> <p>被ばく者医療の過去・現在・未来をグループで考えることができる。</p>		
授業方法 (学習指導法) /Method	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	原爆被ばく者、救護、疫学調査、放射線の人体影響、被ばく者医療		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお、講義の順番は変更になる場合もある。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	三根真理子：原爆と医療の概要		
第2回	宮崎泰司：原爆と血液疾患		
第3回	宮崎泰司：被ばく者への医療		
第4回	中島正洋：放射線とがん		
第5回	中島正洋：放射線被ばく急性障害		
第6回	三根真理子：原爆直後の救護活動(1)		
第7回	三根真理子：原爆直後の救護活動(2)		
第8回	三根真理子：原爆直後の人体影響調査(1)		
第9回	三根真理子：原爆直後の人体影響調査(2)		
第10回	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査(1)		
第11回	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査(2)		
第12回	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査(3)		
第13回	三根真理子：原爆直後の人体影響調査(3)		
第14回	三根真理子：原爆被爆者の疫学調査(大学)		
第15回	三根真理子：まとめ(学生の意見交換)		
第16回			

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 4
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587042101	科目番号 / Subject code	05870421
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (核兵器廃絶と教育)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	全 炳徳		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	全 炳徳		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	全 炳徳, 高瀬 毅, 桐谷 多恵子, 山口 剛史		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	bdjun@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部本館、309号室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2324		
担当教員オフィスアワー / Office hours	月10:30-14:20		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験等の歴史的事実の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「教育の観点」から考える。		
授業到達目標 / Goal	歴史的な負の遺産をどう教育していくのかについて、長崎、広島、沖縄を題材として取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特色や教材のあり方について学ぶ。学んだ内容に基づいて受講生自らの教材を作る。授業教材は現地調査やディスカッション等を経て、小中学生の授業教材として作り上げる。作成した教材は希望者を中心に、学校現場にて実践を行う。		
授業方法 (学習指導法) / Method	長崎、広島、沖縄についての負の遺産や教育関連の専門家による地域的特性などを講義。更には、これらについての事実確認の専門家の講義。これを受けて、受講生たち自らが作成した平和問題と関連した授業教材を開発し実践する場を提供する。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	核兵器廃絶、平和と教育		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	講義時に提示		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	本講義は 1. 毎回レポートの評価点 2. 教材開発と発表の内容評価点 3. 模擬授業の評価点 4. 最終レポートの評価点 を合計して評価する。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	平和に関連した教育の興味・関心のある学生 初等・中等教育に関心のある学生		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション：全		
第2回	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、講義)：桐谷、全		
第3回	核兵器廃絶と教育(広島・長崎の視点から、討論会)：桐谷、全		
第4回	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、講義)：山口、全		
第5回	核兵器廃絶と教育(沖縄の視点から、討論会)：山口、全		
第6回	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、講義)：高瀬、全		
第7回	核兵器廃絶と教育(言論・報道関係者の視点から、討論会)：高瀬、全		
第8回	核兵器廃絶と教育(今までの講義を振り返り)：全		
第9回	核兵器廃絶についての教材開発：全 (グループ活動)		
第10回	核兵器廃絶についての模擬授業：全		
第11回	平和教育についての教材開発：全 (グループ活動)		

第12回	平和教育についての模擬授業：全
第13回	平和教育教材開発1（グループ活動）：全
第14回	平和教育教材開発2（グループ活動）：全
第15回	最終模擬授業：全
第16回	最終レポート提出

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587042501	科目番号 / Subject code	05870425
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (文学・芸術と核兵器)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓, 山上 徹二郎, 赤木 幹子		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次, 多文化, 経済, 教育, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日3・4限およびアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけられてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。		
授業到達目標 / Goal	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、現状を理解し、その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
授業方法 (学習指導法) / Method	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学びながら、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。さらに積極的にLACS等も活用する予定です。また、講師として、現役のプロデューサー、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		
授業内容 / Class outline / Con	様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。		
キーワード / Key word	核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は特に指定しません。ただし、ブックレポートの課題が出された場合は、対象の本は必読となります。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。 長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が60%、期末の成果物 (通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています) が40%です。		
学生へのメッセージ / Message for students	文学、芸術は、講義で説明を聞いているだけで理解できるものではありません。できるだけ積極的に戦争、平和、核兵器をテーマとした映画、ドラマ、コミック、絵本、小説等を自分で見たり、読んだりするように努めてください。		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに：授業の進め方 (広瀬 訓) 文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」		

第2回	<p>他人に伝えるということ（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文章」とは何か ・「書籍」とは何か ・他人に伝わる文章の組み立て方 ・児童文学とは何か
第3回	<p>原爆と映画：その1（山上徹二郎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「映画」というメディアの特徴と影響について
第4回	<p>戦争と平和の文学と芸術（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学と絵本が描く戦争と平和 ・戦前の日本の文学とコミック「少年倶楽部」と「のらくろ」
第5回	<p>戦争児童文学は何を伝えてきたか（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館」とは何か ・「調べる」と「報告する」
第6回	<p>コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えなかったのか ・メッセージとテクニク
第7回	<p>原爆と映画：その2（山上徹二郎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を、何故、どう描くか
第8回	<p>コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情的表現と理論的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）
第9回	<p>核をテーマとした児童文学（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国作品 ・日本の作品
第10回	<p>芸術の持つ力（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「風が吹くとき」のインパクト
第11回	<p>児童文学と広島・長崎（赤木かんこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文学の中の原爆 ・広島・長崎の児童文学
第12回	<p>メディアの功罪（広瀬 訓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦うマンガ」 ・ジャパン・アニメバッシング ・「売る」、「煽る」、「考える」
第13回	<p>新しいメディア（広瀬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルメディアと核兵器 ・NagasakiArchive という挑戦
第14回	<p>原子力発電と児童文学（広瀬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の問題にどう向き合うか ・3/11後の児童文学
第15回	<p>まとめ（広瀬 訓）</p>
第16回	<p>期末レポート提出</p>

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587042901	科目番号 / Subject code	05870429
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (核軍縮の法と政治)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓, 西田 充, 石司 真由美, 鈴木 達治郎		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次生, 多教経薬水		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL/Tel	内線 2204		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜3、4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	昨年度モジュール で学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解の上に、核兵器をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができると考えています。		
授業到達目標 / Goal	具体的な到達目標としては、核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
授業方法 (学習指導法) / Method	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせたの授業にする予定です。できるだけ毎回リアクションペーパーを通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。また、実際に外務省で軍縮交渉を担当している方を客員として招聘し、交渉の現実について、生の声を聴くことも予定しています。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	テキスト： 特に指定しません。 参考書： 黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂 黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社 黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社 藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社 上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。		
備考 (URL) / Remarks (URL)	http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp		
学生へのメッセージ / Message for students	講義の進捗、講師のスケジュール等により、多少予定が変更になる場合があります。授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめてに：授業の進め方 (広瀬) 「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か ・核兵器と安全保障		

第2回	「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・「軍縮」とは何か ・「軍備管理」とは何か ・「不拡散」とは何か
第3回	核兵器の削減(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の取組 ・二国間の取組 ・地域的取組
第4回	核不拡散条約(NPT):その1(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・成立の背景と経過 ・内容と特徴
第5回	核不拡散条約(NPT):その2(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・1995延長会議 ・再検討プロセス ・現状と問題点
第6回	原子力の平和利用と不拡散(広瀬/鈴木達治郎) <ul style="list-style-type: none"> ・科学者の社会的責任
第7回	核実験の禁止(石司) <ul style="list-style-type: none"> ・部分的核実験禁止条約(PTBT) ・包括的核実験禁止条約(CTBT)
第8回	非核兵器地帯(石司) <ul style="list-style-type: none"> ・非核兵器地帯とは何か ・世界の非核兵器地帯 ・北東アジア非核兵器地帯提案
第9回	新しい核軍縮の試み(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・兵器用核分裂性物質生産禁止条約(カutoff) ・核兵器不使用条約 ・核兵器禁止条約
第10回	核軍縮と国際人道法(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・国際人道法とは何か ・核兵器は国際法違反か
第11回	核軍縮交渉の舞台(広瀬) <ul style="list-style-type: none"> ・ジュネーブ軍縮会議(CD) ・国連総会および第一委員会 ・国連軍縮特別総会(SSOD)
第12回	核軍縮交渉の現状と問題点(予定) <ul style="list-style-type: none"> ・西田充客員準教授
第13回	核軍縮交渉の現状と問題点(予定) <ul style="list-style-type: none"> ・西田充客員準教授
第14回	核軍縮交渉と世論(広瀬/石司) <ul style="list-style-type: none"> ・核軍縮交渉と市民 ・私たちにできること
第15回	まとめ(広瀬)
第16回	期末レポート提出

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 5
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587045101	科目番号 / Subject code	05870451
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	核兵器のない世界を目指して (メディアと平和)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	森川 裕二		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	森川 裕二		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	森川 裕二		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	morikay@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL/Tel	095-819-2904		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日9:00~12:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	ジャーナリズムは、第二次大戦後の「世界の平和」についてどのような視点から報道してきたのか。国際政治の中での日本の立ち位置をジャーナリズムを通じて学びます。とくに冷戦後の世界と、3.11後に政治・経済各面の矛盾を浮き彫りにした核開発と原子力平和利用を分離してきたメディアの対応を批判的に議論し、「核なき世界」と平和実現の課題について考える。		
授業到達目標/Goal	平和な世界を実現するために、ジャーナリズムに何を期待すべきか。戦争と平和そして核についての報道を批判的に論じるための視点を身に着ける。		
授業方法 (学習指導法) /Method	講義と討論。講義は国際秩序と平和についての歴史的な流れを主要メディア報道に関連づけて理解するための総論のほか、各論では講義陣に「オルタナティブなメディア」(主要メディアとは異なるメディア:小倉利丸、山口響)、「ローカルメディア」(地方紙:普久原均・琉球新報社論説委員、蓑川裕之・長崎新聞社記者)の現役ジャーナリスト4人が参加し、生きた「平和ジャーナリズム」論について学ぶ。講義をもとにグループ討論の時間を2回用意する。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	冷戦後の世界、国際秩序、核政治、ジャーナリズム		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考図書:『日米核同盟』太田昌克(岩波書店)。藤原帰一『平和のリアリズム』岩波書店。『普天間移設 日米の深層』琉球新報「日米廻り舞台」取材班(青灯社)、『琉球新報が伝える 沖縄の「論理」と「肝心」』琉球新報社論説委員会(高文研)。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポート40% 試験50% 授業・討論の取組み姿勢10%		
受講要件(履修条件)/Requirements	週平均2時間、授業外学習(関連図書・資料のチェックなど)にあてること。日々の新聞・TVの国際関係記事をチェックする習慣をつけること		
学生へのメッセージ/Message for students	事実関係の細部を把握すること以上に、事実関係の背後にある構造と考え方を探求することが大事です。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	メディアは平和をつくれるか(総論、森川)		
第2回	権力とメディア(小倉)		
第3回	戦後国際秩序と日米同盟(森川)		
第4回	冷戦と平和(森川)		
第5回	新しい戦争とメディア(9.11後のジャーナリズム、森川)		
第6回	原子力平和利用と日本の核政治(森川)		
第7回	長崎のメディアは原子力「平和」利用をどう報じたか(山口)		
第8回	3・11後のオルタナティブ・メディア 原発政治をめぐる(山口)		
第9回	反核・反戦運動の中のメディア(山口)		
第10回	反核・反戦運動の中のメディア(グループ討論、山口)		
第11回	沖縄基地問題と日米同盟(琉球新報社記者・普久原)		
第12回	地方メディアと平和報道(長崎新聞社記者・蓑川)		

第13回	地方メディアと平和報道（長崎新聞社記者・蓑川）
第14回	核政治と国際報道（森川）
第15回	核政治と国際報道（グループ討論、まとめ、森川）
第16回	定期試験